

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2007 ～ 2010
課題番号：19730284
研究課題名（和文） 自己とブランドの共進化プロセスの探求

研究課題名（英文） Coevolution process of self and brand

研究代表者

柴田 典子（SHIBATA NORIKO）
横浜市立大学・国際マネジメント研究科・准教授
研究者番号：60347284

研究分野：消費者行動

科研費の分科・細目：経営学・商学

キーワード：自己表現・ブランド・消費者行動・マーケティング・自己・自己呈示

1. 研究計画の概要

本研究では、消費者の自己表現の一手段としてブランドが役立つという、ブランドの自己表現的機能を追求していく。

基本的に、一度の自己表現で自分にとって望ましい自己を100%表現することは不可能であり、しかしながら実際に表現した自己と理想の自己とのギャップがあるからこそ更なる自己表現につながる、という自身の仮説を理論的、実証的に検証することが目的である。

これまでの自身の研究で、自己表現には他者に対する自己表現である「自己呈示」という面と、自分自身に対する内部志向的で自己完結型の「内的自己表現」という2側面があるという着想に至った。上述の仮説は、この自己表現の2側面を前提として成り立つものである。他方、ブランドで自己表現を行うのは消費者だけではなく、提供する側（企業）も自社の提供物であるブランドにより自己表現を行っていると考えられる。これら全てを含めてこそブランドの自己表現的機能であるといえる。理論的、実証的に、前述したブランドの自己表現的機能、消費者の自己とブランドが共に進化していくプロセスを探求することが本研究の目指すところである。

2. 研究の進捗状況

大きく分けて、(1)先行研究のレビュー、(2)データ収集、(3)事例研究、(4)分析、(5)研究全体のまとめ（総括としての論文執筆）が本研究を遂行する上で必要な主たる内容である。

(1)先行研究のレビュー：主に、マーケティング、消費者行動、社会心理学、心理学、経済学といった領域における自己表現研究、自己研究を対象として実施。

(2)データ収集：消費者と商品・ブランドとの関わり方や心情に関する日記式調査データを収集。

(3)事例研究：消費者による自己表現行為の対象となり得る商品・ブランドおよび当該商品・ブランドの提供企業のマネジメント、企業によるブランドを通じた自己表現的行為についての事例研究を実施。

(4)分析：(2)で収集した定性データを主にテキスト・マイニングにより分析を実施。その他、定量調査も実施。

(5)研究全体のまとめ（総括としての論文執筆）：一連の研究プロセスを通じた成果をまとめる。

現段階では、(3)事例研究と(4)分析が重点的に取り組むべき課題であり、加えて先行研究レビューの追加も必要となる。それを経て本研究を総括する論文を執筆することになる。

また、現在までの研究成果をまとめ総括に控えるための論文を作成中である。

3. 現在までの達成度

<区分> ④

(理由) 体調不良による。

4. 今後の研究の推進方策

本研究課題に付された残りの研究期間を鑑み、本研究課題を遂行する上で必要な内容を適切かつ計画性をもって迅速に完結させ

る。そのためにも中間報告的な論文の作成を急ぐ。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

1. 柴田典子,「ブランドによる自己表現の2側面」, 単著, 横浜市立大学社会科学系列, 第58巻, 1, 2, 3合併号, 2007年. 査読無し